

# 令和元年度 事業報告書

## 1. 法人の概要

### (1) 基本情報

#### ①法人の名称

学校法人 山野学苑

#### ②主たる事務所の住所等

住所：〒151-8539 東京都渋谷区代々木 1-53-1

電話番号：03-3379-0111

FAX 番号：03-3370-0008

ホームページ：<https://www.yamano.jp/>

### (2) 建学の精神と教育理念

山野学苑は、初代山野愛子校長が提唱した「美道5大原則（髪・顔・装い・精神美・健康美）」を基に美容理論の追及、美容に関する知識・技能の教授・研究を通して社会や美容界で広く貢献のできるリーダーを育成するとともに、国際社会で活躍のできる人材の育成を目標とする。

### (3) 山野学苑の沿革

昭和 9年 4月	東京日本橋に山野美容講習所設立
23年 9月	国際山野高等美容学院設立認可
24年 12月	財団法人山野高等美容学校設置者変更、設立認可 (理事長に山野治一就任、校長に山野愛子就任) 美容師養成施設として厚生大臣の指定を受ける
29年 12月	学校法人山野高等美容学校設置者変更認可 (学校教育法第8条第3項準用の同法第4条の規定)
48年 12月	学校法人山野学苑に法人名称を変更
52年 2月	学校法人山野学苑山野美容専門学校設置認可
平成 3年 12月	山野美容芸術短期大学設置認可(文部大臣)
4年 4月	山野美容芸術短期大学開設 美容芸術学科設置
7年 8月	山野美容芸術短期大学学長に山野正義就任 山野美容専門学校校長に山野愛子シェーン就任
7年 12月	山野美容芸術短期大学 美容保健学科設置
9年 10月	山野日本語学校設置認可
10年 4月	山野美容芸術短期大学 美容保健学科 美容師養成施設に指定
10年 4月	山野日本語学校開設(校長に山野正義就任)
10年 12月	山野美容芸術短期大学 美容福祉学科設置 (介護福祉士養成施設に指定)

14年 12月	山野医療専門学校認可
15年 3月	山野美容芸術短期大学美容福祉学科 美容師養成施設指定
15年 4月	山野医療専門学校開設、柔道整復師養成施設に指定 (校長に山野正義就任) 山野美容芸術短期大学 美容福祉学科 美容師養成施設に指定
16年 2月	山野美容芸術短期大学 専攻科社会福祉専攻 大学評価・学位授与機構認定
16年 4月	山野美容芸術短期大学 専攻科芸術専攻・社会福祉専攻開設
17年 2月	山野美容芸術短期大学 専攻科芸術専攻大学評価・学位授与機構認定
19年 4月	山野美容専門学校校舎 M. YAMANO TOWER 竣工
23年 4月	山野美容芸術短期大学 美容芸術学科、美容保健学科、美容福祉学科を改組し、美容総合学科(美容デザイン専攻、総合エステティック専攻、国際美容コミュニケーション専攻)開設
24年 4月	山野美容芸術短期大学 美容総合学科現代美容福祉専攻開設
25年 4月	学校法人山野学苑総長に山野正義就任 学校法人山野学苑理事長に山野愛子ジェーン就任 山野美容芸術短期大学学長に山野愛子ジェーン就任 山野日本語学校校長に山野一美ティナ就任
26年 3月	山野学苑創立 80 周年記念式典挙行
27年	山野美容専門学校専門課程、文部科学大臣より「職業実践専門課程」に認定
27年 4月	山野美容芸術短期大学 美容総合学科 エステティック専攻(名称変更)
令和 2年 3月	山野医療専門学校閉校

#### (4) 設置する学校

山野美容芸術短期大学	美容総合学科 美容デザイン専攻 エステティック専攻 国際美容コミュニケーション専攻 専攻科 芸術専攻 日本語別科
山野美容専門学校	専門課程 高等課程 通信課程
山野日本語学校	大学進学準備教育 1 年コース 大学進学教育 1 年半コース 日本語一般 1 年コース

## (5) 学校等の学生数の状況

(令和元年 5 月 1 日現在)

学 校 名		入学定員	入学者数 R1.5.1	収容 定員 R1.5.1	現員数 R1.5.1	前年度 現員数 H30.5.1	新年度 現員 R2.5.1
山野美容芸術 短期大学	美容総合学科	245	261	475	491	491	366
	専攻科芸術専攻	40	0	80	3	6	0
	日本語別科	60	60	60	91	90	22
山野美容 専門学校	美容専門課程	800	572	1,600	1067	1,144	1048
	美容高等課程	540	28	1,080	55	55	35
	通信課程	600	197	1,800	828	807	906
山野医療 専門学校	柔道整備専門課程	30	0	90	8	8	0
山野 日本語学校	大学進学準備教育 1 年コース	100	91	100	77	91	3
	同 上 1 年半コース	55	86	110	90	86	74
	大学進学コース 1 年コース	100	82	100	92	82	45

(注) 山野医療専門学校は、平成 30 年 4 月生徒募集停止、令和 2 年 3 月閉校

## (6) 収容定員の充足率

(毎年度 5 月 1 日現在)

学 校 名	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
山野美容芸術短期大学	0.95	1.03	1.06	1.06	1.04
山野美容専門学校					
美容専門課程	0.68	0.77	0.74	0.72	0.67
美容高等課程	0.04	0.04	0.05	0.05	0.05
通信課程	0.45	0.49	0.37	0.45	0.46
山野医療専門学校	0.35	0.23	0.41	0.22	0.09
山野日本語学校	0.76	0.77	0.81	0.84	0.84

## (7) 役員の概要

理事の定数 9 名

	氏 名	就任年月日	常勤/ 非常勤	主 な 現 職 等
1	山野愛子ジェーン	平成 7.8.8	常勤	(学) 山野学苑理事長・山野美容芸術短期大学学長・ 山野美容専門学校校長・(財) 国際美容協会理事長・ 山野流着装宗家

2	山野栄子ダイアン	平成 25. 5.28	非常勤	(学)山野学苑学苑長、山野美容商事(株)取締役
3	香川 美津江	平成 12. 5.26	非常勤	(財)国際美容協会理事・山野美容芸術短期大学兼任教員
4	福田 富雄	平成 27. 9.15	非常勤	(株)フォーティ・ウインクス代表取締役副社長
5	村田 明彦	平成 27. 8. 3	非常勤	東京ティーモス法律事務所
6	河東 まゆみ	平成 25. 5.28	非常勤	サロン・ド・エム経営
7	青木 和子	平成 22.10.21	常勤	山野美容芸術短期大学教授
8	木村 康一	平成 29. 5.26	常勤	山野美容芸術短期大学副学長

(注) 寄附行為第6条3の規程により、理事の定数1名を減じている。(学苑長、短期大学学長が理事を兼ねている)

監事の定数 2名

1	水野 孝平	平成 22.10.21	非常勤	税理士
2	林 成高	平成 20.11. 5	非常勤	(有) ユー美容室経営

#### (8) 評議員の概要

評議員の定数 19名

	氏名	就任年月日	主な現職等
1	山野愛子ジェーン	平成 4. 5.25	(学)山野学苑理事長・山野美容芸術短期大学学長・山野美容専門学校校長・(財)国際美容協会理事長・山野流着装宗家
2	山野栄子ダイアン	平成 25. 5.28	(学)山野学苑学苑長、山野美容商事(株)取締役
3	山野一美ティナ	平成 12. 5.26	山野日本語学校校長・UCLA 教授
4	中川巧スタンリー	平成 14. 3.29	(学)山野学苑総括
5	香川 美津江	平成 12. 5.26	(財)国際美容協会理事・山野美容芸術短期大学兼任教員
6	河東 まゆみ	平成 25. 5.28	サロン・ド・エム経営
7	村田 明彦	平成 27. 8. 3	東京ティーモス法律事務所
8	福田 富雄	平成 27. 9.15	(株)フォーティ・ウインクス代表取締役副社長
9	青木 和子	平成 21. 8.31	山野美容芸術短期大学教授
10	木村 康一	平成 29. 5.26	山野美容芸術短期大学副学長
11	新藤 アイ	平成 7. 3. 1	山野美容芸術短期大学兼任教員・(財)国際美容協会着装教室宗伝
12	高清水 則夫	平成 2. 6.10	(財)国際美容協会総務部長
13	鈴木 輝康	平成 16. 4. 1	元山野美容専門学校事務局長
14	杉浦 ゆり	平成 21. 8.31	セントケア(株)・訪問介護
15	高橋 節子	令和 2. 4. 1	(株)コメット・プロパティ代表取締役
16	三宅 政志公	平成 27. 9.15	元学校法人山野学苑事務局長
17	佐藤 美奈子	平成 27. 9.15	(学)山野学苑理事長補佐・(財)国際美容協会着装教室宗伝
18	多田 正明	平成 27. 9.15	(学)山野学苑企画課顧問
19	古山 正道	平成 7. 8. 8	(学)山野学苑経理部長

## (9) 教職員の概要

(令和元年5月)

	本務人数	兼務人数	合計	平均年齢 (本務)	平均年齢 (兼務)	平均年齢 (合計)
山野美容芸術短期大学	62	154	216	47.2	49.4	48.8
山野美容専門学校	74	6	80	45.1	66.6	46.7
山野日本語学校	13	25	38	38.6	43.4	41.7
法人事務局	30	9	39	51.0	48.2	50.3

## 2. 事業の概要

### (1) 主な教育・研究の概要

山野学苑は、昭和9年に東京・日本橋に美容師養成事業の端緒となる山野美容講習所を創立、昭和29年には学校法人山野高等美容学校を設立し、以来、美道5大原則を教育理念に今年で87年の歴史を迎える。

この間、国内最大級の美容学校である山野美容専門学校、我が国初となる美容の高等教育機関である山野美容芸術短期大学を設立、更には山野日本語学校を開設し、世界で活躍のできる人材の育成に努め、今日に至っている。

また、山野学苑は、日本で初めて「美容福祉」を提唱し、更に超高齢社会の諸問題を学際的に研究する「美齢学・ジェロントロジー」教育を普及・教授し、米国 USC、青山学院大学、大阪大学等と連携をしながら、新たに「美齢学」を構築するための美齢学研究センターを設立し、社会のニーズに対応した教育体制の整備を目指している。

### 山野美容芸術短期大学の概要

#### ◆建学の精神◆

髪、顔、装い、精神美、健康美の五大原則に基づく「美道」の追求、実践

#### ◆教育目標◆

##### ・美容総合学科

本学科は美道五大原則（髪・顔・装い・精神美・健康美）に基づく美容教育と教養教育により、『美しく生きる力』を形成することを教育目標とする。『美しく生きる力』とは、課題を発見し、解決する能力すなわち自ら考え、行動し、振り返ることのできる力を備え、あらゆる他者にホスピタリティ及びコミュニケーション力を発揮できるとともに、自身のみならず他者も含めた豊かな人生を追求できる力である。

##### ◎美容デザイン専攻

美容デザイン専攻は、幅広い教養と、美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、他者のニーズを踏まえて「美」を表現するデザイン力、加えて国際性を兼ね備えた、美容産業を中心とする様々な分野で活躍できる人材を育成する。

##### ◎エステティック専攻

エステティック専攻は、幅広い教養と、美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、

解決する能力を備え、人のからだの「美」について、医学、生理学、栄養学、心理学など総合的な視点でとらえることができる力、加えて国際性を兼ね備えた、エステティック産業を中心とする様々な分野で活躍できる人材を育成する。

#### ◎国際美容コミュニケーション専攻

国際美容コミュニケーション専攻は、幅広い教養と、美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、語学力や自国文化を含めた異文化理解などの国際性を兼ね備えた、サービス産業を中心とする様々な分野で活躍できる人材を育成する。

#### ・専攻科芸術専攻

高度な美容技術やデザイン力、表現力を身につけた、「美容芸術」の体現者たる美容家を育成する。

#### ・日本語別科

国内の美容関連学科を有する大学又は専門学校に進学を希望する外国人に対し、日本語、日本事情、日本文化等を教授し、国際的視野に立つ美容界の理解者となる人材を育成する。

#### ◆ディプロマポリシー（卒業までに身に付けること 卒業の認定に関する方針）◆

本学の教育目標は『美しく生きる力』を形成することである。よって各専攻の輩出する人材像は、具体的に以下の能力を身に付けた者である。

##### 1.【知識・技能】

知識や技術を適切に運用できる能力

- ・必要な情報を収集、整理し、課題を発見できる。
- ・習得した美容の知識や技能を関連付けながら他者への提供ができる。

〈美容デザイン専攻〉

- ・美容におけるデザインを総合的な視点で捉え、提供することができる。

〈エステティック専攻〉

- ・美や健康を総合的な視点で捉え、提供することができる。

〈国際美容コミュニケーション専攻〉

- ・国際性を総合的な視点で捉え、英語によるコミュニケーションを発揮することができる。

##### 2.【思考力・判断力】

課題解決のために思考し、判断できる能力

- ・広い視野と、思考法に基づき分析、解釈できる。
- ・根拠に基づき判断し、解決策を立てることができる。

##### 3.【表現力】

課題解決のために適切に表現できる能力

- ・習得した知識や技能を基に、自分の考えを組み立て、適切に表現(記述・口述・作品等)できる。
- ・解決策を提示できる。

##### 4.【主体的行動力】

課題解決のための精神力、主体的に行動できる能力

- ・自ら率先して学ぶことができる。
- ・自己を理解し、主体的に適性や個性を生かし行動できる。
- ・失敗してもあきらめずにやり遂げることができる。
- ・社会の一員として、自覚と誇りを持って行動できる。

#### 5.【ホスピタリティ・コミュニケーション力】

多様な人とホスピタリティを持ってコミュニケーションできる能力

- ・様々な状況に応じて適切な対話、討論ができる。
- ・目的達成のために、多様な人と協働できる。
- ・様々な人のニーズを把握し、おもてなしの精神を持ったサービス提供ができる。

### ◆アドミッションポリシー（入学者の受入れに関する方針）◆

建学の精神、教育目標及びディプロマポリシーを理解し、その目標に向かって努力できる人材を希望します。具体的には、以下のような人物を求めます。

#### ・美容総合学科

<各専攻において求める人物像>

##### 1 知識・技能

- ・美しさへの関心を持っている人
- ・新しい知識や技能の習得に興味のある人

##### 2 思考力・判断力

- ・物事を幅広い視野から総合的に見つめようとする人

##### 3 表現力

- ・他者の考えを聴くことができる人
- ・自分の考えをまとめることができる人

##### 4 主体的行動力

- ・自ら率先して学ぶ意欲があり、努力する人

##### 5 ホスピタリティ・コミュニケーション力

- ・人とかかわることが好きで、相手の笑顔に幸せを感じる人

#### ◎美容デザイン専攻

- ・美容（ヘアやメイクアップなど）に興味がある人
- ・手を動かして「もの」をつくるのが好きな人

#### ◎エステティック専攻

- ・美容（エステティックなど）に興味がある人
- ・美と健康に興味がある人

#### ◎国際美容コミュニケーション専攻

- ・英語でのコミュニケーションに興味がある人
- ・美容（メイクアップなど）に興味がある人

<入学者選抜の実施方針>

本学は、学力を構成する重要な要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体性・多様性・協働性」）を踏まえた多面的・総合的に評価する入学者選抜を実施します。

#### <入学前までに身に付けておいてほしい力>

高等学校で履修する範囲の基礎学力を有している。

#### ・専攻科芸術専攻

建学の精神、教育目標及び専攻のディプロマポリシーを理解し、その目標に向かって努力できる人物を求めます。

#### ・日本語別科

建学の精神、教育目標及び日本語別科のディプロマポリシーを理解し、その目標に向かって努力できる人物を求めます。

### ◆カリキュラムポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）◆

#### ・美容総合学科

##### ◎美容デザイン専攻

本学の教育目標は『美しく生きる力』を形成することである。美容デザイン専攻では、幅広い教養と、美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、他者のニーズを踏まえて「美」を表現するデザイン力、加えて国際性を兼ね備えた、美容産業を中心とする様々な分野で活躍できる人材を育成する。そのため、以下のような方針に基づきカリキュラムを編成している。

美容デザイン専攻のカリキュラムは、次の3つの領域で構成する。

##### 1) 教養領域

伝承美や語学、心理学等の教養を身につける。

##### 2) 美容知識・技術領域

根拠に基づく技術を身につける。

##### 3) 美容デザイン領域

他者のニーズをつかむ力と、「美」を表現する力を培う。

上記の3領域を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、あらゆる他者にホスピタリティ及びコミュニケーション力を発揮できる力を身につける。

##### ◎エステティック専攻

本学の教育目標は『美しく生きる力』を形成することである。エステティック専攻は、幅広い教養と、美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、人のからだの「美」について、医学、生理学、栄養学、心理学など総合的な視点でとらえることができる力、加えて国際性を兼ね備えた、エステティック産業を中心とする様々な分野で活躍できる人材を育成する。そのため、以下のような方針に基づきカリキュラムを編成している。



エステティック専攻のカリキュラムは、次の3つの領域で構成する。

1) 教養領域

伝承美や語学、心理学、社会学等の教養を身につける。

2) 美容知識・技術領域

根拠に基づく技術を身につける。

3) エステティック領域

心とからだの「美」を理解し、確かな手技と機器に対する正しい知識を身につける。

上記の3領域を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、あらゆる他者にホスピタリティ及びコミュニケーション力を発揮できる力を身につける。

### ◎国際美容コミュニケーション専攻

本学の教育目標は『美しく生きる力』を形成することである。国際美容コミュニケーション専攻は、幅広い教養と、美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、語学力や自国文化を含めた異文化理解などの国際性を兼ね備えた、サービス産業を中心とする様々な分野で活躍できる人材を育成する。そのため、以下のような方針に基づきカリキュラムを編成している。

国際美容コミュニケーション専攻のカリキュラムは、次の4つの領域で構成する。

1) 教養領域

伝承美や社会学、心理学等の教養を身につける。

2) 語学領域

英語・日本語によるコミュニケーション力を身につける。

3) 美容知識・技術領域

根拠に基づく技術を身につける。

4) 国際領域

多様な文化を学ぶことで、国際性を身につける。

上記の4領域を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、あらゆる他者にホスピタリティ及びコミュニケーション力を発揮できる力を身につける。

### ・専攻科芸術専攻

専攻科芸術専攻のカリキュラムは、「美容芸術」を体現する力を身につけるための3つの領域で構成する。

1) 美容技術領域

「美容芸術」を実践する訓練として接客実習を取り入れながら、高度な技術を身につける。

2) 芸術表現領域

自己の内面を形にする表現力を養い、他者のニーズを踏まえて表現するデザイン力を研鑽する。

3) 美容芸術領域

美容と芸術を学習者の内部で融合させ、学習者それぞれの「美容芸術」を作り上げる。

• 日本語別科

日本語別科のカリキュラムは、次の3つの領域で構成する。

1) 日本語領域

日本語の会話、読解、聴解、作文を学ぶ。

2) 日本文化領域

日本事情や日本文化を理解する。

3) 美容領域

日本の美容を理解する。

◎ 「令和元年度山野学苑事業報告」(PDF)

(2) 中期的な計画

山野学苑では、令和2年4月から同7年3月までの5年間を中期計画期間とする「学校法人山野学苑中期計画」を策定し、今年度よりその実現に取り組んでいる。

## 令和 元年度山野学苑事業報告

### はじめに

山野学苑は、昭和9年に東京・日本橋に美容師養成事業の端緒となる山野美容講習所を創立、昭和29年には学校法人山野高等美容学校を設立し、以来、美道五大原則を教育理念に今年で87年の歴史を迎える。

この間、国内最大級の美容学校である山野美容専門学校、我が国初となる美容の高等教育機関である山野美容芸術短期大学を設立、更には山野日本語学校を開設し、世界で活躍のできる人財の育成に努め、今日に至っている。

また、山野学苑は、日本で初めて「美容福祉」を提唱し、更に超高齢社会の諸問題を学際的に研究する「美齢学・ジェロントロジー」教育を普及・教授し、米国USC、青山学院大学、大阪大学等と連携をしながら、新たに「美齢学」を構築するための美齢学研究センターを設立し、社会のニーズに対応した教育体制の整備を目指している。

### 《短期大学》

#### 【全般】

令和元年度は、事業計画と併せ、事業運営の計画を明確にしていくため5年間の中期計画を策定した。

その中で、改めて建学の精神を再認識し、建学の精神を具現化する学科の将来像を示した。令和元年度は、その実現に向け様々な取り組みを進めてきた。

#### ①教育

教育にあっては、学習成果の可視化を第1にあげ、IR活動による外部評価や、学修時間・学修行動の実態把握、入学者調査など量的・質的データを積み重ね、分析・評価を進めた。

3つのポリシーの点検を行うとともに、アセスメントポリシーに基づく学習成果カルテ（ルーブリック）見直しのために自己点検評価・改善委員会によりワーキンググループを立ち上げ、精査し一部改正を行った。また、学習成果カルテは、主観的評価の観点が強いことから、GPAの他にも客観的評価の観点を加えるため、外部の標準化されたアセスメント・テスト（PROG）を導入した。

#### ②カリキュラム

カリキュラムにあっては、ナンバリング制を導入した。カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップ、CAP制等と合せ、ディプロマポリシーの更

なる理解の手助けとなるとともに、3つのポリシーの点検にも寄与できると期待している。シラバスにおいても、評価のフィードバック方法の項目を追加した。

学生が本学での学びを理解し、学生自身が成長をより実感できるよう、今後も教育の質保証システムへの転換を目指していく。

### ③授業方法

授業方法にあっては、学生の主体的学び（アクティブラーニング）を進めるため、FD/SDの研修を進め、PBLの授業方法も積極的に取り入れた。また、授業アンケートを年間4回実施し、期中の授業改善等につなげている。評価の高い授業にあっては、教員相互の授業参観を実施した。

この他に、本学の理念を実現するための授業スタンスなどをインストラクションスタンダードとして定めるべく審議を進めた。

### ④教員評価

教員評価にあっては、昨年度策定した指標による評価を行い、優秀な教員への顕彰を行った。

### ⑤入試

入試制度改革に向け、アドミッション・オフィサーを新たに2名任命し、3名の体制とした。

### ⑥学生支援

学生支援としては、外部機関のプログラム研修を非常勤講師も含めた教職員が受講した。4月オリエンテーションにおいて、そのプログラムを実践し、個々の学生を掌握し、支援していく体制を整えた。

また、本学には留学生も多く在籍しており、ゼミ担当教員を増強し、支援体制・指導体制を強化した。次年度に向けては、大学組織としての管理体制を改めて見直し、教員個々人の努力もさることながら、組織として学生を支援し、指導していく体制とすべく、更なる改善を進める。

### ⑦その他

高等教育の修学支援新制度については、対象機関として認定された。

## 【将来構想計画の推進】

平成30年度に国際美容コミュニケーション専攻の入学定員の増加申請を行った。令和元年度この設置計画履行状況調査において、状況把握のため実地調査を受けた。その結果、定員を大幅に超過する一方、留学生の退学者を多く出していることについて指摘事項（是正）の意見が付された。この結果を真摯に受け止め、安定した大学運営とすべく体制の改善と整備を継続して進めていく。

現状の国際美容コミュニケーション専攻の入学定員の超過率については、大きな課題と捉え、これまで、学科内の入学定員の移行による設定の見直しを検討してきた。しかし、短期大学の将来構想に関し、これからの急速な社会情勢の変化に対応し、将来的に持続可能な大学運営を行っていくためには、抜本的な改革が必要であるという認識のもと、学長室の将来構想会議等において、専門職大学への移行や、新専攻の設置など、様々な方向での検討を重ねてきた。

その結果、令和3年度(2021年度)より専攻を統合(学科改組)し、抜本的な改革を図ることを基本方針として定め、外部有識者の意見等も有効に活用して、より具体的な計画策定を推進している。

学科改組に際しては、平成30年11月文部科学省の「2040年に向けた高等教育のグランドデザインの答申」を踏まえたうえで、建学の精神である「美道の追求」を主眼によりアカデミックにカリキュラムを再構築し、「美道に基づく人間力の育成」を軸とした、本学の特色を最大限に活かした教育改革を行う。「美しく生きるために必要な能力を有し、美容を通じ広く国際社会に貢献する人材」を人材育成像とし、履修コース制とすることにより、これまでの専攻の横断的な学びを実現することと合わせ、新たな関連分野の学びにより、学びの広がりと深度をもった教育体系への再構築を目指す。

計画は、令和2年度(2020年度)に学科改組届出を提出する。

さらに、教育の質の更なる充実と向上を図ることを念頭に置き、社会人や留学生の受入れについても体制を強化すべく、多様なメディアの活用などについても検討を進める。

## 1 各専攻等の内容

### (1) 美容デザイン専攻

美容師の国家資格が取得できる専攻である。幅広い教養と、美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、他者のニーズを踏まえて「美」を表現するデザイン力、加えて国際性を兼ね備えた美容産業を中心とする様々な分野で活躍できる人材の育成を主眼に教授を行った。

令和元年度は、本専攻の学習成果の一つである、美容師免許の取得について、実技試験、筆記試験共に美容師国家試験100%合格を達成することができた。

また、山野学苑が培ってきた美容福祉の継承の一翼を担う「介護職員初任者研修」も継続して実施した。

本専攻の中で、海外のサロンでの活躍や、国内においても英語での接客・コミュニケーション力を有し、グローバルな活躍を目指す学生に向けた、「グローバルスタイリストプログラム」を体系化しており、このプログラムを今後、履修証明プログラムとして展開していくこととして検討を進めている。

## (2) エステティック専攻

幅広い教養と、美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、人のからだの「美」について、生理学、栄養学、心理学など総合的な視点でとらえることができる力、加えて国際性を兼ね備えた、エステティック産業を中心とする多様な分野で活躍できる人材の育成を主眼に教授を行った。

この中で、体の内側から、キレイになるために必要な食や栄養、健康、オーガニックコスメなどに関する知識と技術を学ぶ、「インナービューティプログラム」、またエステティック国際ライセンスのC I D E S C Oの資格を取得し、グローバルな活躍を目指す学生に向けた、「グローバルビューティシヤンプログラム」を展開した。令和元年度は、本専攻の学習成果の一つである、C I D E S C Oの資格認定について、受験者の100%合格を達成することができた。このことにより本専攻は、国際ライセンスC I D E S C O認定校となった。

## (3) 国際美容コミュニケーション専攻

幅広い教養と美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、語学力や自国文化を含めた異文化理解などの国際性を兼ね備えた、サービス産業を中心とする様々な分野で活躍できる人材の育成を主眼に教授を行った。

本専攻においては、日本文化、接客接遇、異文化理解、接客英語等を学び、「グローバルおもてなしマイスター」認定と、経済産業省が創設した「おもてなしスキルスタンダード」のベーシック認定を取得し、外国人対象にサービス産業での活躍できる人材育成を推進する。

令和元年度は、英語でのコミュニケーション力を活発化させるため、カリキュラムの大幅な見直しを行い、海外留学についても新たな進路拡大を図った。このことと合わせ、令和元年度より英語教育に関するサポートスタッフの配置を行い、英語教育センターの内装もディスカッションなどを実施しやすいよう改装した。

また、アメリカニューヨーク州立大学ジェームスタウンコミュニティカレッジから、短期インターンシップ生を受け入れ、学生との交流を図った。

## (4) 専攻科芸術専攻

専攻科は、高度な美容技術やデザイン力、表現力を身につけた、「美容芸術」の体現者たる美容家の育成を主眼に教授を行った。美容技術のスキルアップと芸術としての美容の研究を目指し、授業では、絵画、彫刻、デザイン、写真等

を通して表現力を高めながら、将来の仕事に生かせる実践的な美容技術や美容に関わる深い知識を身につけ、修了と同時に大学卒業と同等の学位「学士（芸術学）」取得を目指した。

令和元年度にあっては、入学者はなかった。

#### (5) 日本語別科

国内の美容関連学科を有する大学又は専門学校に進学を希望する外国人に対し、日本語、日本事情、日本文化等を教授し、国際的視野に立つ美容界の理解者となる人材の育成を主眼に教授を行った。

## 2 卒業後の進路

### (1) 美容デザイン専攻

区 分	人 員	占有率 (%)
美容室	63	68.48
化粧品	5	5.43
アイラッシュ	3	3.26
ブライダル	2	2.17
その他業界	7	7.61
進学	1	1.09
帰国	3	3.26
上記以外進路	8	8.70
計	92	

### (2) エステティック専攻

区 分	人 員	占有率 (%)
エステ	19	55.88
化粧品	8	23.52
ネイル	1	2.94
その他業界	3	8.83
上記以外進路	3	8.83
計	34	

### (3) 国際美容コミュニケーション専攻

区 分	人 員	占有率 (%)
ホテル	10	14.29
化粧品	8	11.43
外食	5	7.14
ネイル	3	4.29
アパレル	1	1.43
空港関係	1	1.43
その他業界	20	28.57
進学	4	5.71
上記以外進路	18	25.71
計	70	

#### (4) その他

留学生の日本国内美容業界への就職は専攻科生2名の計2名となった。

### 3 キャリアサポート

#### (1) キャリア支援センター

キャリア支援センターは、ゼミ担当教員並びにキャリア形成科目担当教員等と密接に連携を図りながら、就職先やインターンシップ先の開拓等、提携先を増やし学生に対して情報提供の充実に努めた。

令和元年度、新たな取り組みとして短期大学ならではの多様性と、きめ細かな指導體制を更に強化するため、国際美容コミュニケーション専攻において、キャリア形成授業を立ち上げ、キャリア形成の基礎を学ぶ機会提供並びに社会人基礎力向上に努め、就職に対する取り組み意欲を飛躍的に高める効果を発揮した。

またOB講演会並びに企業講演の内容・回数を見直し、内容の充実と回数を増やし、先輩の活きた就活体験情報や企業が望む人材像等情報を直接学生に伝え、新たな可能性に挑戦するパワー（社会人基礎力の向上）に努めた。

この他、特別講座の実施（講演）、企業説明会の実施（サロン、ブライダル、写真スタジオ、一般企業）、個別相談、面接指導、書類指導を行った。

特に個別相談・面接指導・書類指導等において、キャリア支援センターとして学生個々に可能な限り寄り添い、個別対応の指導環境の強化に努めた。

さらに、Uターン・Iターン就職協定を結んでいる長野県、栃木県、並びに山梨県と連携し、学生へ求人情報提供並びに有力地元企業を本学に招いて企業説明会を開催した。

#### (2) ゼミナール

特に人間教育に柱を置いて「ゼミナール」では、チームビルディング力、コミュニケーション力・課題解決力等の社会人基礎力の育成を柱とし、少人数制の人間教育、キャリア教育をさらに充実させるべく、手厚い学習サポートと生活サポートを行いながら取り組んだ。

#### (3) インターンシップ

ヘアサロン、エステサロン、ネイルサロン、一般企業（ブライダル企業、化粧品企業）等へ1年次の夏と2年への進級直前の3月に2週間から1ヶ月程度のインターンシップに参加し、学生が働くことの意義や職場の状況について事



前体感するとともに社会人としての意識付けの強化を図った。

令和元年度は、春のインターンシップを美容室のみに留め、他の業界希望者（特に一般企業）は同期間実際の就活に集中した活動指導を行い、昨年度よりも早く就職活動に取り組んだ。参加学生は36社90人（平成30年度は35社123人）であった。研修実施企業として、国内では、化粧品会社、ネイルサロン、美容室、エステサロン、ホテルスパ、ブライダル会社、写真館、メイクスタジオ、着付け会社、空港関係（免税店）、アパレル販売、海外では、ブライダル、美容室で実施した。

#### 4 授業外活動・地域連携等

必修科目として包括協定を締結している八王子市提供ボランティア活動に16項目の活動に学生51名（延人員）が参加した。

そのほか地域密着として八王子まつり、鎌水の里ふれあい会緑のフェスティバル2019、学生天国、などへ参加した。

また産学連携のPBLとして、平成30年度から引き続き株式会社 ES-ROOTS 社と山野美容芸術短期大学学生による「オーガニックコスメプロジェクト」を実施展開した。当プロジェクトは学生と企業が連携し、オーガニックコスメの商品開発から販売までを行う総合型プロジェクトで、具体的に「Est Bio Balancing Mist」【肌状態を整える化粧水】の商品設計・開発を行い、販売まで担当実施した。携わった学生は、この体験を通じて、社会で活躍する能力が飛躍的に高められ、企業様からも高い評価を頂けた。

この他、産学連携として地元企業と連携し、7か月間定期的にスチューデントサロンを実施するなど取り組みを進めた。

この他、グローバルな取り組みとしては、アメリカンスクールインジャパン、Annual Student Exchange、西町インターナショナルスクール、クライミング世界選手権八王子2019などで、外国の方を対象にヘアメイク、着付け、お茶体験などを実施した。

#### 5 学生募集

令和2年度入学者獲得のため、オープンキャンパスを在学生在が全面に出る企画構成とし全11回開催したほか、学校見学会、高校訪問、校内・会場進学ガイダンス及びWebリスティング広告、SNSの活用等を積極的に実施した。また、令和3年度の学科改組に向けて、ブランディングの確立のためコンセプトブック、コンセプトブックムービーを制作し、ブランドのステータス向上を図り、WEBサイトのリニューアルを実施した。令和2年度の入学者数は次のとおりである。

(1) 本科

専攻	入学者	定員	充足率
美容デザイン	87 (0)	160	54.4
エステティック	17 (1)	40	42.5
国際美容コミュニケーション	51 (34)	45	113.3
計	155 (35)	245	63.3

注：（）内数字は、留学生を示し、内数を表す。

(2) 日本語別科（令和元年度実績）

ア 入学者

区分	入学者	定員	充足率 (%)
10月生	14	60	125.0
4月生	61		
計	75		

イ 国別

国名	入学者		計
	10月生	4月生	
中国	9	17	26
ネパール	0	23	23
ベトナム	5	17	22
韓国	0	1	1
ウズベキスタン	0	2	2
カンボジア	0	1	1
計	14	61	75

6 美齢学の構築

「人生100年時代の諸課題を学際的に研究する『美齢学ジェロントロジー』教育」を普及・教授するため、米国USCと青山学院大学、大阪大学、台湾の弘光科技大学と連携し、社会のニーズに対応した教育体制を整備すべく、調査研究を推進した。また、美齢学研究推進のため、特任教授の委嘱を行った。

## 7 生涯学習等

生涯学習を含めた社会人向けの講座等については、美容福祉事業研究センターを中心に進めた。美容福祉事業の推進のため、特任講師の委嘱を行った。

生涯学習として、地域との連携を含めたハロウィンイベントやプログラム等を開催した。

生涯学習講座としては、地域にある大学コンソーシアムに参画し、八王子市主催の「いちよう塾」において、建学の精神にある美道を軸に「美齡講座」を開講した。公開講座と提供講座として合計23講座を担当し、市民263人の受講生が参加した。

また、次年度以降にリカレントプログラムとして、履修証明プログラムを開設することとし、プログラムの企画検討を進め、規程等の整備を行った。

## 8 防災・危機管理

防火・防災管理、危険物、自衛消防隊等関係指定表の見直しを行った。

学苑として情報セキュリティの方針を定め、FD/SDにおいて研修を行った。

VR体験車の派遣を受け、防災訓練を実施した。

## 9 外部資金の獲得

国の助成事業を見据え、前述しているこれらの活動を結び付けることで、本年度も補助金を獲得することができたが、昨年度から比し減じてしまった。

健全な運営のための体質改善を含めた改革をさらに進めること、適正な学生確保に努めること、教育の質的転換を進め、私立大学等改革総合支援事業等の補助金など外部資金の獲得を進める。

また、学費収入以外に、社会人や外国人等を対象に、履修証明プログラムや、オンライン教育を活用したリカレントプログラム等の事業の検討を進めている。

## 《美容専門学校》

### 1. 学生数

学生数は以下の通りであるが、中でも専門課程の70期生が入学時の548名の内、2年間で151名が退学・除籍・卒業延期等となったことが学生数減少に大きく影響した。

特に前年度に86名が退学・除籍等になったことを猛省すべき点として、今年度は教職員が一丸となって退学防止に取り組んだ。

具体的には、(株)学びの寺裏代表を招いて全教員を対象とした研修を行い、最近の学生の傾向、生徒とのコミュニケーションの効果的な取り方や保護者との連携方法などを学び指導に活かした。

また、生徒指導専門の事務職員と協働し、遅刻や欠席の防止に留まらず、挨拶や教室清掃の徹底をはかり優秀なクラスを表彰するなど、日常的な行動に対する指導を強化した。この結果、前年度に比べて退学率を5ポイント改善することができた。

さらに、高等教育の無償化の第1回認定校に選ばれたことは、今後、経済的な不安を抱える生徒の退学防止にも寄与するものとする。

課程		入学者数 4月在籍者数	退学、転出、 除籍者数	卒業延期 留年者数	卒業 進級者数
専門課程	70期	462名	49名	16名	397名
	71期	574名	37名	26名	511名
高等課程	123期	19名	0名	1名	18名
	124期	28名	4名	2名	22名
通信課程		入学300名	94名	—	卒業 84名
		在籍516名			進級638名

### 退学率推移（専門課程）

年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
退学率	10.3%	9.3%	14.2%	9.3%

### 2. 学生募集

学生募集は広報委員会と入試課、広報課が主体となって取り組んだが、今年度から入試業務が入試課の業務となり、9月以降に業務が重なったことでパワーが分散した。一方、オープンキャンパスの回数、来校者数は以下の通りであ

るが、高校3年生で見ると前年度に比べて約150名減少した（前々年度比では約350名減少）。歩留率は前年と同様32%前後と、以前に比べ5ポイント以上上がっているが、絶対数の落ち込みが入学者数の減少に繋がったものと考ええる。

さらに、71期生の入学者数に比べ約70名が減少したが、その9割が首都圏の減少数に相当する。入試課（現：広報課）を学生募集に専念できる体制にするとともに、美容専門学校として特に都内の他校と比較して、国家試験の合格率はもちろん、その他の優位性は何か、それをどのように確実に伝えるかを再考しなければならない。

課程	ガイダンス回数	OC回数	来校者数	出願者数	入学者数
専門課程	281回	30回	3120人	525名	504名
高等課程				16名	16名
通信課程				217名	214名

### 入学者数推移

課程/年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
専門課程	633名	599名	548名	574名	504名
高等課程	27名	28名	26名	28名	16名
通信課程	289名	299名	283名	300名	214名

### 3. 国家試験合格率

国家試験合格率は春期実施分では全国平均90.0%と同レベルであったが、前年度比では3%以上の減少、都内の美容専門学校の平均合格率94.3%を下回る結果となった。他校の一部が合格基準に満たない生徒に受験させないといった方法で、合格率の向上をはかっているのに対して、当校が卒業資格を得た生徒全員に受験させることを理由とする向きもある。

しかし、「職業実践専門課程の認定校」として、国家試験合格を入学者に対する最低限の保証とするなら、それは言い訳に過ぎない。従来と同様の国家試験対策ではなく、進学塾と同様な意識で、全生徒の合格に向けて傾向と対策（PDCA）を考え、確実に実行し続ける体制を整えなければならないと考える。

課程	受験者数	学科合格率	実地合格率	合格率全体
専門課程	395名			90.3%

高等課程	17名			
通信課程	80名			64.1%

#### 国家試験合格率推移

課程	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
専門課程	92.1%	90.0%	94.8%	93.9%	90.3%
全国平均	94.5%	94.0%	91.1%	91.3%	90.0%

※新卒、春期のみ

#### 4. 卒業後の進路

就職状況は、内定率 100%、第一希望内定率 60%となった。全生徒の就職活動状況をデータ化し、担任教員と共有をはかりながら個別の指導を強化した。また、昨年5月と今年2月の2回にわたって合同サロン説明会を山野ホールで開催し、延べ10日間で250社の参加となり、生徒の就職に対する意識を高めた。

さらに、生徒に人気の高い有名サロンとの関係性を強化し、OBを含めた現役の勤務者を招聘した講演会や勉強会を開催したことで、LIPPS:10名、OCEAN; 4名、GOALD:2名、kakimoto:6名、アクロス:1名と、昨年を上回る内定が得られた。一方、美容師の離職率は就職1年目で50%と非常に高いと言われている。それを考えた時、今後の就職支援については、さらに生徒の適正と就職先サロンの指導・育成体制を考慮したマッチングを進めることが重要である。

### 《山野日本語学校》

#### 1. 学校の概要

##### (1) 設置コース

コース名	入学時期	定員
大学進学準備教育1年コース	4月	100名
大学進学準備教育1年半コース	10月	110名
日本語一般1年コース	4月	100名

##### (2) 教職員数

	専任	増減	非常勤	増減
教員	7人	0	26人	2人
職員	3人	0	1人	0人

(3) 生徒数（下段は昨年）

コース名	生徒数	定員充足率
大学進学準備教育1年コース	33人 (122人)	33% (122%)
大学進学準備教育1年半コース	240人 (254人)	218% (230%)
日本語一般1年コース	99人 (11人)	99% (11%)
計	372人 (387人)	120% (125%)

(4) 生徒数（地域別、下段は昨年）

中国	ベトナム	フィリピン	ネパール	他	計
72% (77%)	11% (10%)	3% (3%)	6% (7%)	8% (6%)	100%

## 2. 事業の概要

- (1) 山野日本語学校はわが国の大学、専門学校へ進学するための日本語教育及び基礎教育を行う、大学進学準備教育1年コース及び大学進学準備教育1年半コースとわが国の大学、専門学校への進学するための日本語教育を行う日本語一般1年コースを設置している。

日本語能力試験(N2以上)の状況（延べ人数、下段は昨年）

受験者数	204人 (183人)
認定者数	77人 (71人)
合格率	38% (39%)

進学状況（ ）カッコ内は昨年

大学院	大学	短期大学	専修学校
17人(10)	35人(29)	5人(5)	91人(86)

※ 主な進学先

大学院：東京大学、東北大学、静岡大学、北陸先端科学技術大学院大学、慶応大学、明治大学、目白大学、桜美林大学、城西国際大学、ハリウッド大学院大学

大 学：東京外国語大学、宇都宮大学、横浜市立大学、慶応大学、中央大学、法政大学、東洋大学、専修大学、国士館大学、拓殖大学、西武文理大学、流通経済大学、麗澤大学、東京情報大学、文京学院大学、中央学院大学、日本経済大学、至誠館大学、東京福祉大学、国際医療福祉大学、桜美林大学

- (1) 日本語教育のみならず、日本の文化や風習、日本人の考え方を理解することも重要視し、同学苑内の山野美容芸術短期大学、山野美容専門学校、山野医療専門学校と積極的に交流を行った。

山野美容専門学校、山野医療専門学校とは合同の学苑祭を行い、直接日本人との共同の作業を行うことで日本人に対する理解を深めた。

- (2) 学生募集においては、進学実績を上げるために増やしていた、中国学生の比率を若干減らし72%とした。しかし、良い学生を選ぶことで引き続き進学実績は向上した。また、日本語能力試験の合格率は、ほぼ前年と同様であるが、既にN2以上を取得している学生の入学が多くなっていることが原因であると思われる。